

平成 22 年度
1 級建築施工管理技術検定試験（学科試験）対策

実力診断テスト

（問題数 60 問）

建築学（環境工学・力学・一般構造・材料）	…	10 問
施 工（躯体）	…	10 問
施 工（仕上）	…	10 問
施工計画・工程管理	…	10 問
品質管理・安全管理	…	10 問
法規等（建築基準法・建設業法 ・労働基準法・労働安全衛生法 他）	…	10 問

訂正①：問題 No.45 の 3 肢 設問補足「壁面のタイル工事で行う～」

主 催

財団法人 地域開発研究所
建築施工管理技術研究会

不許複製

問題 No. 1 日照及び日射に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 東面の垂直壁の終日の直達日射量は、1年中で夏至のときに最大になる。
2. 北面の垂直壁の可照時間は、1年中で夏至のときに最長になる。
3. 日照率とは、1日（24時間）に対する日照時間の比を百分率で表した値である。
4. ブラインドは、窓面の内側より外側に設置した方が室内への熱負荷を軽減できる。

問題 No. 2 換気に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 第二種機械換気方式は、室内圧を負圧に保つことができるので、クリーンルームや病院の手術室などに用いられる。
2. 風上側と風下側に外部開口部をもつ室における、風力による自然換気量は、風向きが一定であれば、外部風速に比例する。
3. 室内外の温度差による自然換気量は、他の条件が同じであれば、流入口と流出口との高低差が大きいほど多い。
4. 在室者の呼吸による必要換気量は、室内の二酸化炭素発生量を、室内の許容二酸化炭素濃度と外気の二酸化炭素濃度の差で除して求める。

問題 No. 3 音に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 直接音から1/20秒以上遅れて大きな反射音があることによって、音が二重に聞こえる現象をエコー（反響）という。
2. 聞こうとしている音が、それ以外の音の影響によって聞きにくくなることをカクテルパーティ効果という。
3. 固体音として構造体を伝わってくる振動からも騒音は発生する。
4. コンクリート間仕切壁の音の透過損失は、一般に低周波数域より高周波数域の方が大きい。

問題 No. 4 鉄筋コンクリート造建築物の構造計画に関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 平面的に長大な建物には、コンクリートの乾燥収縮や不同沈下等の問題が生じやすいので、エキスパンションジョイントを設ける。
2. 耐震壁の立面配置は、耐震計画上、市松模様状に分散して配置することは望ましくない。
3. 垂れ壁や腰壁により短柱となった柱は、水平力が集中するので、壁と柱の間を構造的に絶縁するなど考慮する。
4. 建物に設けるエキスパンションジョイント部のあき寸法は、建物の高さを考慮する。

問題 No. 5 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 帯筋比は、0.2 %以上とする。
2. 普通コンクリートを使用する場合、柱の小径は、その構造耐力上主要な支点間の距離の1/15以上とする。
3. 梁主筋の下端筋の端部は、柱内で曲げ上げ定着としてはならない。
4. 梁に貫通孔を設けた場合の構造耐力の低下は、曲げ耐力よりせん断耐力の方が著しい。

問題 No. 6 基礎に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 杭の鉛直支持力を求める方法としては、杭の載荷試験が最も信頼できる。
2. 支持杭の許容支持力には、基礎スラブ底面における地盤の支持力は加算しない。
3. 基礎梁の剛性を大きくすることにより、基礎フーチングの沈下を平均化できる。
4. 支持杭を用いた杭基礎の場合、杭周囲の地盤沈下によって杭周面に働く正の摩擦力を考慮する。

問題 No. 7 梁の断面が H 形で、断面 2 次モーメントが $60a^4$ の場合の断面係数で**正しいもの**はどれか。ただし、幅は $4a$ 、高さは $6a$ で中立軸は部材中央とする。

1. $24a^3$
2. $24a^4$
3. $20a^3$
4. $20a^4$

問題 No. 8 コンクリートに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 細骨材率が小さすぎると、スランプの大きいコンクリートでは分離しやすくなる。
2. 水セメント比を小さくするほど、コンクリートの中性化速度は早くなる。
3. コンクリートの圧縮強度が大きくなるほど、ヤング係数は大きくなる。
4. 単位セメント量が過大なコンクリートは、ひび割れが発生しやすい。

問題 No. 9 金属材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ステンレス鋼は、炭素量の多いものほど耐食性に優れている。
2. アルミニウムにマンガンやマグネシウムを加えると耐食性が増す。
3. 鋼にマンガンやケイ素を添加すると、溶接性が改善される。
4. 溶融亜鉛めっき鋼板は、亜鉛の腐食生成物が保護膜となって表面を覆うことにより耐食性を高めた鋼板である。

問題 No. 10 建築材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ポリカーボネート樹脂板は、耐熱性や耐衝撃性に優れている。
2. せっこうプラスターは、水和反応により硬化する材料である。
3. 日本農林規格の普通合板は、接着の程度によって1類と2類に分類されており、1類の方が耐水性に優れている。
4. 強化せっこうボードは、両面のボード用原紙とせっこうの心材に防水処理を施したものである。

問題 No. 11 土工事及び根切り工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ヒービングとは、軟弱な粘性土地盤を掘削する際に、山留め壁の背面土のまわり込みにより掘削底面の土が盛り上がってくる現象をいう。
2. 盤ぶくれとは、掘削底面やその直下に不透水性土層があり、その下の被圧地下水の圧力により掘削底面が持ち上がる現象をいう。
3. 砂質地盤の根切り工事で、ボーリングの発生が予測される場合、釜場工法で排水を行うのがよい。
4. 床付け地盤が凍結した場合、凍結した部分は乱された土と同様に扱い、良質土と置換するなどの処置を行う。

問題 No. 12 ソイルセメント柱列山留め壁工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 地下水位が高い地盤や軟弱な地盤に適した工法である。
2. 泥水処理が必要で、排出泥土が鉄筋コンクリート山留め壁に比べて多い。
3. 単軸のロックオーガーによる方法は、硬質な岩や地中障害がある場合の山留め壁の造成に用いられる。
4. 先行削孔併用方式は、N値50以上の地盤における山留め壁の造成に用いられる。

問題 No. 13 地盤調査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 被圧地下水位の測定は、ボーリング孔内において自由地下水及び上部にある帯水層を遮断しない状態で行う。
2. 自由地下水位の測定は、ボーリング時に泥水を使わずに掘進することにより比較的精度よく行うことができる。
3. 圧密試験により、粘性土の沈下特性を調べることができる。
4. 三軸圧縮試験により、粘性土のせん断強度を求めることができる。

問題 No. 1 4 場所打ちコンクリート杭に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アースドリル工法の掘削深さの確認は、検測器具を用いて孔底の2 箇所以上で検測する。
2. リバース工法では、孔内水位を地下水位より 1 m 以上高く保つ。
3. 鉄筋かごに取り付ける同一深さ位置のスペーサーは、4 箇所以上設ける。
4. 地下水位が高い地盤や軟弱な地盤に適した工法である。

問題 No. 1 5 鉄筋の継手に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 隣り合う重ね継手の中心位置は、重ね継手長さの0.5 倍ずらすか又は1.5 倍以上ずらす。
2. 径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の径により算定する。
3. 重ね継手をフック付きとする場合、継手の長さは、フックの角度に応じて異なる。
4. 梁主筋の重ね継手は、水平重ね、上下重ねのいずれでもよい。

問題 No. 1 6 型枠工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 型枠設計用のコンクリートの側圧は、打込み速さにかかわらずフレッシュコンクリートのヘッドにより決まる。
2. 型枠の構造計算において、支保工以外の材料の許容応力度は、長期と短期の許容応力度の平均値とする。
3. 型枠の組立ては、これらの荷重を受ける下部のコンクリートが有害な影響を受けない材齢に達してから開始する。
4. 合板を型枠に用いる場合は、方向性による曲げヤング係数の低下を考慮する。

問題 No. 1 7 コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 水セメント比を低減すると、塩化物イオンの浸透に対する抵抗性を高めることができる。
2. AE コンクリートにすると、凍結融解作用に対する抵抗性の改善が可能となる。
3. 骨材に砕石や砕砂を使用し、スランプ18 cm のコンクリートを調合する場合、単位水量を185 kg/m³ 以下にするためには、高性能AE 減水剤を使用するとよい。
4. 単位セメント量が過少のコンクリートは、水密性、耐久性が低下するが、ワーカビリティはよくなる。

問題 No. 18 コンクリートの養生に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度は、早強ポルトランドセメントと普通ポルトランドセメントは同じである。
2. 寒中コンクリートで加熱養生を行う場合は、コンクリートに散水をしてはならない。
3. コンクリート打設後、コンクリート面が露出している部分に水密シートによる被覆や散水を行うことは初期養生として有効である。
4. 大断面の柱や基礎梁など、部材断面の中心部の温度が外気温より25℃以上高くなるおそれがある場合は、保温養生により、温度ひび割れの発生を防止する。

問題 No. 19 鉄骨の工作に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 開先加工は自動ガス切断とすることができるが、著しい凹凸のあるものは修正する。
2. 溶融亜鉛めっき高力ボルトM22を用いる場合でも、高力ボルトM22を用いる場合でも、孔径は同一でよい。
3. 高力ボルト接合の摩擦面をショットブラスト処理とすれば、赤錆は発生させなくてもよい。
4. 高力ボルト用の孔あけは、板厚が16mmの場合、せん断孔あけとすることができる。

問題 No. 20 クレーンに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ジブを有しないクレーンの定格荷重とは、つり上げ荷重からフックやグラブバケットなどのつり具の重量に相当する荷重を除いた荷重のことである。
2. クレーンで重量物をつり上げる場合、地切り後に一旦停止して機械の安定や荷崩れの有無を確認する。
3. ラチス式クローラクレーンは油圧式トラッククレーンと異なり、ブームの組立て解体の場所を考慮しなければならない。
4. クローラクレーンは、油圧式トラッククレーンに比べ接地圧が大きく、地盤の悪い所での移動性に劣る。

問題 No. 21 アスファルト防水に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アスファルト防水において、貫通配管回りに増張りした網状アスファルトルーフィングは、アスファルトで十分に目つぶし塗りを行った。
2. アスファルト防水において、パラペットの立上り入隅部に用いる成形キャント材は、角度45度、見付幅70mm程度のものとした。
3. 露出防水絶縁工法において、入隅は、砂付あなあきルーフィングを用いて、平場へ500mm以上張り掛けて増張りした。
4. 寒冷地であったので、防水工事用アスファルトは、JISの規格4種のものを使用した。

問題 No. 2 2 シーリング工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. マスキングテープはプライマーの塗布前に張り付け、充填したシーリング材の可使用時間が過ぎてから除去した。
2. ノンワーキングジョイントの目地においては、3面接着とした。
3. 気温 10℃、湿度 85%であったので、シーリングの施工を中止した。
4. バックアップ材は、裏面粘着剤の付いていないものを使用するので、目地幅より2mm程度大きいものとした。

問題 No. 2 3 壁タイル張り工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 密着張りの張付けモルタルは2度塗りとし、その塗り付ける面積は、30分以内にタイルを張り終える面積とした。
2. 接着剤張りの接着剤は、金ごてで下地に厚さ6mm程度塗り付けた。
3. 小口タイルの改良圧着張りの張付けモルタルは、下地側に4mm程度、タイル裏面に3mm程度の塗厚で塗り付けた。
4. 50二丁タイルのマスク張りの張付けモルタルは、ユニットタイルの裏面に厚さ4mm程度のマスク板をあて、所定の厚さに塗り付けた。

問題 No. 2 4 乾式工法による外壁張り石工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 厚さが30mmの石材のだぼ穴中央位置は、石材の裏面から15mmとした。
2. 石材間の目地は、幅を10mmとしてシーリング材を充填した。
3. ダブルファスナー形式の場合の取付け代として、石材裏面と躯体コンクリート面の間隔を50mmとした。
4. 壁最下部の幅木石には、裏面にモルタルを充填した。

問題 No. 2 5 金属製建具に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 通常の鋼製建具枠は、心墨、陸墨などを基準とし取り付け、倒れの取付け精度の許容差を、面内、面外とも±5mmとした。
2. コンクリート外壁に建具枠を取り付ける場合、仮止めに用いるくさびは、モルタルを充填する際、取残しがないよう長めのものを使用した。
3. アルミニウム製建具の見え隠れ部で用いる補強材に、亜鉛めっき鋼材を用いることとした。
4. 外部に面する錠は、防犯上から、モノロックをシリンダー箱錠に変更することとした。

問題 No. 26 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スタッドは、上下ランナーに差し込み、半回転させて取り付けた。
2. ランナー両端部の固定位置は、端部から 50 mm 内側とした。
3. 65 形のスタッド材を使用した高さ 4.0 m のそで壁端部に、スタッド材を 2 本抱き合わせて溶接したものを補強材として用いた。
4. スペーサーは、各スタッドの端部を押さえ、間隔 600 mm 程度に留め付けた。

問題 No. 27 塗装工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. けい酸カルシウム板の塗装において、吸込止め処理として、反応形合成樹脂ワニス进行全面に塗布した。
2. ALC パネル面の塗装において、下地調整塗りを行った後、合成樹脂エマルジョンシーラー进行全面に塗布した。
3. 亜鉛めっき鋼面の合成樹脂調合ペイント塗りでは、鉛酸カルシウムさび止めペイント 2 回塗り後、中塗りを行った。
4. 外壁コンクリート面のアクリル樹脂エナメル塗りでは、下塗りの前に穴埋めパテかきと研磨紙ずりを行った。

問題 No. 28 ビニル床シート張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 下地コンクリートの仕上りの平坦さは、3 m につき 7 mm 以下とした。
2. 継手溶接において、溝の深さはシートの厚さの 2/3 程度とした。
3. 熱溶接工法において、溶接作業は、床シートを張付け後 12 時間以上放置してから行った。
4. 熱溶接工法において、溶接部の床シートの溝部分と溶接棒は、250 ～ 300 °C の熱風で加熱溶融させ、圧着溶接した。

問題 No. 29 合成樹脂塗り床に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 下地調整には、塗り床材と同質の樹脂にセメントなどを混合した樹脂パテを用いた。
2. 無溶剤形エポキシ樹脂塗り床の流しのベ工法において、主剤と硬化剤の 1 回の練混ぜ量は、2 時間で使い切れる量とした。
3. 弾性ウレタン塗り床の下地調整は、プライマーの乾燥後、下地のくぼみや隙間等の大きさにより樹脂パテ等の材料を使い分けて下地を平滑に仕上げる。
4. エポキシ樹脂塗り床の流しのベ工法における下地コンクリートは、金ごてを用いて平滑に仕上げる。

問題 No. 30 壁のせっこうボード張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 外壁の室内面では、躯体に打ち込んだポリスチレンフォーム断熱材の上に、直張り工法によりせっこうボードを張り付けた。
2. 洗面所のシーリングせっこうボードには、切断面にアクリル系シーラーを塗布した。
3. せっこう系接着材による直張り工法で、接着材を塗り付ける間隔は、ボードの周辺部より中央部付近を小さくした。
4. 2重張りとする場合、上張りは縦方向とし、継目位置が下張りの継目と重ならないようにした。

問題 No. 31 事前調査や準備作業に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 竣工後のクレーム対応資料とするため、周辺道路や近隣建物の状況写真を着工前だけでなく工事中も撮影することとした。
2. 搬入道路の計画をするために、周辺道路に通学路の指定があるか調査した。
3. 掘削深さや地盤条件に応じた山留めを設けることとしたので、隣接建物の基礎の調査は省略した。
4. 山留め工事に当たって、敷地内の試掘を実施し、湧出する地下水の水質調査を行った。

問題 No. 32 総合仮設計画に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄筋コンクリート造の工事であったので、ゲートの有効高さは、コンクリート満載時の生コン車の高さとした。
2. 傾斜地に設置した仮囲いの鋼板の下端に生じたすき間は、木製の幅木でふさいだ。
3. 工事用の電力量が工程上で極端なピークを生じるので、一部を発電機で供給する計画とした。
4. 施工者用事務室と監理者用事務室は、同一建物内でそれぞれ独立して設ける計画とした。

問題 No. 3 3 施工計画に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工種別の施工計画書は、施工要領、施工条件、使用材料、工程計画などを含めて作成した。
2. 乗入れ構台の計画では、スロープの勾配を 1/4～1/5 に設定した。
3. 山留め壁工法における一次根切りでは、山留め壁が自立状態となるので、一次根切り深さを浅くする計画とした。
4. 鉄骨建方において、架構の倒壊防止用にワイヤロープを使用するので、このワイヤロープを建入れ直し用に兼用する計画とした。

問題 No. 3 4 材料の保管又は取扱いに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 被覆アーク溶接棒は、吸湿しているおそれがある場合、乾燥器で乾燥してから使用する。
2. 防水用の袋入りアスファルトを積み重ねるときは、10 段以上積まないようにして保管する。
3. 砂付ストレッチルーフィングは、ラップ部分（張付け時の重ね部分）を上に向けて保管する。
4. 壁紙などの巻いた材料は、横にして俵積みで保管する。

問題 No. 3 5 建築工事において、法令等に定めている届出の期日に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 60 日以上設置する高さ及び長さがそれぞれ10 m 以上の架設通路の設置
—————当該工事の開始の日の 14 日前までに届出
2. 掘削の深さが10 m 以上の地山の掘削の作業を労働者が立ち入って行う仕事
—————当該仕事の開始の日の 14 日前までに届出
3. 積載荷重1 t 以上の人荷用のエレベーター設置届
—————工事の開始の日の 30 日前
4. ゴンドラ設置届
—————工事の開始の日の 30 日前

問題 No. 3 6 各部工事における工程短縮のための一般的な対策に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 内部の非耐力壁を、現場打ちコンクリートから ALC パネルに変更する。
2. 外壁のタイル後張り工法を、タイル打込みハーフ PC 板による工法に変更する。
3. 高層の鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の鉄骨建方に水平積上げ方式を採用する。
4. 使用するコンクリートに、スランプの小さいコンクリートを採用する。

問題 No. 37 ネットワーク工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンピュータを使用すれば複雑な工程表を作成しやすい。
2. 工程上の要となる作業が明らかになるので、重点管理が可能になる。
3. クリティカルな作業と他の作業の相互関係を把握する。
4. バーチャート工程表との併用は避ける。

問題 No. 38 突貫工事になると工事原価が急増する原因として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 材料の手配が施工量の増加に間に合わないときに生じる作業員の手待ちが生じる。
2. 1日の施工量の増加に対応するために必要となる揚重機械の増設が生じる。
3. 歩増しや残業手当等による賃金等の割り増しが生じる。
4. 型枠等の消耗役務材料の使用量が、施工量に比例して増加する。

問題 No. 39 Sチャートに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. チャートにおいて、グラフの曲線の傾きが水平になると工事が進んでいないことを示す。
2. Sチャートにおいて、実績の出来形の累積値がバナナ曲線の内にある場合は、工程の遅れを示す。
3. Sチャートは、工事出来高の累計を縦軸に、工期の時間的経過を横軸に表示するものである。
4. Sチャートは、工事の遅れが一目で速やかに把握でき、施工計画で定めた工程の進捗よく状況がよくわかる。

問題 No. 40 一般的な事務所ビルの新築工事における全体工程表上のマイルストーン(管理日)として、**最も重要度の低いもの**はどれか。

1. 掘削開始日
2. 鉄骨建方開始日
3. 軽量鉄骨天井地下地取付け開始日
4. 外部足場の解体完了日

問題 No. 41 品質管理の用語に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 許容差とは、計量的な観測値の最大値と最小値の差である。
2. 誤差とは、観測値・測定結果から、真の値を引いた値である。
3. 公差とは、許容限界の上限と下限との差である。
4. 標準とは、関係する人々の間で利益または利便が校正に得られるように統一及び単純化を図る目的で定めた取り決めである。

問題 No. 4 2 品質管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 品質を確保するためには、工程の最適化を図るより、検査を厳しく行う方がよい。
2. 適正な工程が計画できたら、作業が工程どおり行われているかどうかの管理に重点をおく。
3. 工程が安定状態で不良品となるものがごくわずかであり、これがもし次工程に流れてもその損害が検査費用に比べて少ない場合、無試験検査を適用できる。
4. 品質管理では、出来上り検査で品質を管理することよりも、工程で品質を造り込むことを重視する。

問題 No. 4 3 品質管理に用いる図表の説明に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 特性要因図は、特定の結果と原因系の関係を系統的に表した図のことである。
2. 散布図は、2つの事象の関係を見る手法であり、両者の間に強い相関がある場合には、プロットされた点は直線又は曲線に近づく。
3. 管理図とは、データの度数分布の形等に注意し、規格値との関係をみる図のことである。
4. パレート図とは、数値の大きい方から順に並べた棒グラフで、それに累積度数曲線を描き加えたものである。

問題 No. 4 4 ISO 9000（品質マネジメントシステムー基本及び用語）に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 力量とは、知識と技能を適用するための実証された能力をいう。
2. 是正処置とは、起こり得る不適合又はその他の望ましくない起こり得る状況の原因を除去するための処置をいう。
3. 顧客満足とは、顧客の要求事項が満たされている程度に関する顧客の受けとめ方をいう。
4. 手直しとは、要求事項に適合されるための、不具合製品にとる処置をいう。

問題 No. 4 5 試験及び検査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 荷卸し地点におけるコンクリートの空気量の許容差は、指定した空気量に対して、 $\pm 2.5\%$ とした。
2. 現場搬入時の造作材の含水率は、 15% 以下であることを確認した。
3. **壁面のタイル工事で行う**接着力試験の試験体の個数は、 100 m^2 ごと及びその端数につき1個以上、かつ全体で3個以上とした。
4. アルミニウム製建具の陽極酸化皮膜の厚さの測定は、渦電流式厚さ測定器を用いて行った。

問題 No. 4 6 作業主任者を選任しなければならない作業として、「労働安全衛生法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 土止め支保工の切りばりの取付け又は取りはずし作業
2. 高さが6 mの鉄筋コンクリート造建築物の解体作業
3. スラブから2.5 mの高さに設置する単管つり足場の組立て作業
4. 長さ20 mの場所打ちコンクリート杭の築造作業

問題 No. 4 7 仮設工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 深さが1.4 mの箇所で作業を行うので、昇降するための設備は設けなかった。
2. 高さ5 mの作業構台の床材間のすき間は4 cmとした。
3. 単管を用いた棚足場の組立てにおいて、3層3スパン以内ごとに水平つなぎ、斜材等を設け一体化した。
4. 脚立足場において、足場板を脚立上で重ね、その重ね長さは20 cmとした。

問題 No. 4 8 クレーンに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 移動式クレーンを用いる場合、当該作業に係る労働者の配置及び指揮の系統は、運転に係る合図を行う者が定めなければならない。
2. 作業の性質上やむを得ない場合、移動式クレーンのつり具に専用のとう乗設備を設けて労働者を乗せることができる。
3. 作業を行うときは、運転者及び玉掛けをする者が当該クレーンの定格荷重を常時知ることができるよう、表示その他の措置を講じなければならない。
4. 強風により作業を中止した場合であって移動式クレーンが転倒するおそれがあるときは、ジブを堅固なものに固定させる等の措置を講じなければならない。

問題 No. 49 安全管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 高所から物体を投下するとき、適切な投下設備を設け、監視人を置く必要があるのは、3 m 以上の高さから投下する場合である。
2. 強風、大雨、大雪等の悪天候時に作業を禁止しなければならないのは、作業を行う箇所の高さが3 m 以上の場合である。
3. 一つの現場の工事を一括して請け負った特定元方事業者は、仕事の工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置に関する計画を作成しなければならない。
4. 安全衛生責任者は、当該請負人の労働者以外の者の行う作業によって生ずる労働災害に係る危険の有無の確認を行わなければならない。

問題 No. 50 有機溶剤等作業主任者の職務として、「有機溶剤中毒予防規則」上、**定められていないもの**はどれか。

1. 局所排気装置又は全体換気装置を定められた期間ごとに点検すること。
2. 作業に従事する労働者が有機溶剤により汚染され、又はこれを吸入しないように作業の方法を決定し、労働者を指揮すること。
3. 屋内作業場の有機溶剤の濃度を6 月以内ごとに1 回、定期的に測定し、測定結果を記録し保存すること。
4. 局所排気装置、プッシュプル型換気装置又は全体換気装置を1 月を超えない期間ごとに点検すること。

問題 No. 51 用語の定義に関する記述として、「建築基準法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 倉庫の用途に供する建築物は、特殊建築物である。
2. 建築物に設ける煙突は、建築設備である。
3. 地下の工作物内に設ける事務所は、建築物ではない。
4. 床が地盤面下の階で、床面から地盤面までの高さがその階の天井の高さの以上のものは、地階である。

問題 No. 5 2 建築確認手続等に関する記述として、「建築基準法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 建築主は、指定確認検査機関による完了検査を受ける場合であっても、建築主事に対して検査の申請をしなければならない。
2. 鉄骨造2階建の建築物を新築しようとする建築主は、建築主事又は指定確認検査機関の確認を受けなければならない。
3. 工事を施工するために現場に設ける事務所は、建築確認を受けなくても建築することができる。
4. 鉄骨造2階建ての新築工事において、特定行政庁の仮使用の承認を受けたときは、建築主は検査済証の交付を受ける前においても、この建築物を仮に使用できる。

問題 No. 5 3 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 建設業者は、許可を受けた建設業に係る建設工事を請け負う場合、当該建設工事に附帯する他の建設業に係る建設工事を請け負うことができる。
2. 建設業の許可は、5年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。
3. 建築工事業で一般建設業の許可を受けている者は、発注者から請け負った工事のうち、下請業者3者にそれぞれ請負代金の額1,500万円の下請工事を発注することができる。
4. 一般建設業の許可を受けた者が、当該許可に係る建設業について、特定建設業の許可を受けたときは、一般建設業の許可は効力を失う。

問題 No. 5 4 工事の請負契約に関する記述として、「建設業法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 建設工事の請負契約の締結に際して書面による契約内容の明記に代えて、情報通信の技術を利用した一定の措置による契約の締結を行うことができる。
2. 委託契約として報酬を得て建設工事の完成を目的とする契約を締結した場合、建設業法の適用は受けない。
3. 注文者は、請負契約の締結後、自己の取引上の地位を不当に利用して、使用する資材や機械器具の購入先を指定して購入させ、請負人の利益を害してはならない。
4. 請負契約の内容として、工事の施工により第三者が損害を受けた場合における賠償金の負担に関する定めを書面に記載しなければならない。

問題 No. 58 次の記述のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 分別解体等には、建築物等の新築工事に伴い副次的に生ずる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為が含まれる。
2. 建設資材廃棄物の再資源化等には、焼却、脱水、圧縮その他の方法により建設資材廃棄物の大きさを減ずる行為が含まれる。
3. 建設業を営む者は、建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努めなければならない。
4. 対象工事の元請業者は、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、その旨を都道府県知事に報告しなければならない。

問題 No. 59 次の記述のうち、「都市計画法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 仮設建築物は、市街化調整区域のうち開発許可を受けた開発区域以外の区域内に、許可を受けずに新築することができる。
2. 市街化調整区域内にあつては、建築面積が100㎡の機械修理工場を建設する場合許可を受ける必要はない。
3. 市街化調整区域内にあつては、農機具や生產品の保管・貯蔵の倉庫を建設する場合、許可を受ける必要はない。
4. 市街化調整区域内にあつては、公民館を建設する場合、許可を受ける必要はない。

問題 No. 60 宅地造成工事規制区域内において行われる宅地造成工事に関する記述として、「宅地造成等規制法」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 切土した土地の部分に高さが3 m のがけを生ずることとなる土地の形質の変更は、宅地造成に当たる。
2. 擁壁に必要な水抜穴は、壁面の面積3 m² 以内ごとに、内径7.5 cm 以上の耐水材料を用いたものとしなければならない。
3. 宅地造成とは、宅地以外の土地を宅地にすることをいい、宅地において行う土地の形質の変更は含まない。
4. 切土又は盛土をする土地の面積が 500 m² を超えるものは宅地造成に当たる。